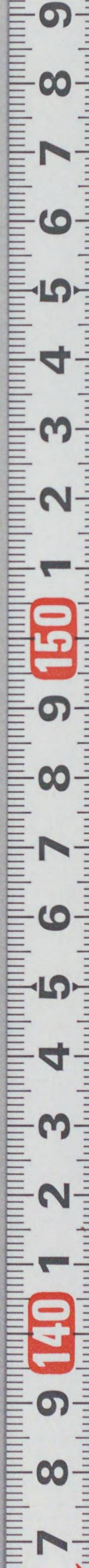




208  
4  
88

狂言田舎繰  
夏



国立国会図書館 狂言田舎繰 208-88

ガラス使用



式亭三馬戯題

トよきお蔭で目とい〜トキニ羽立の公儀後〜

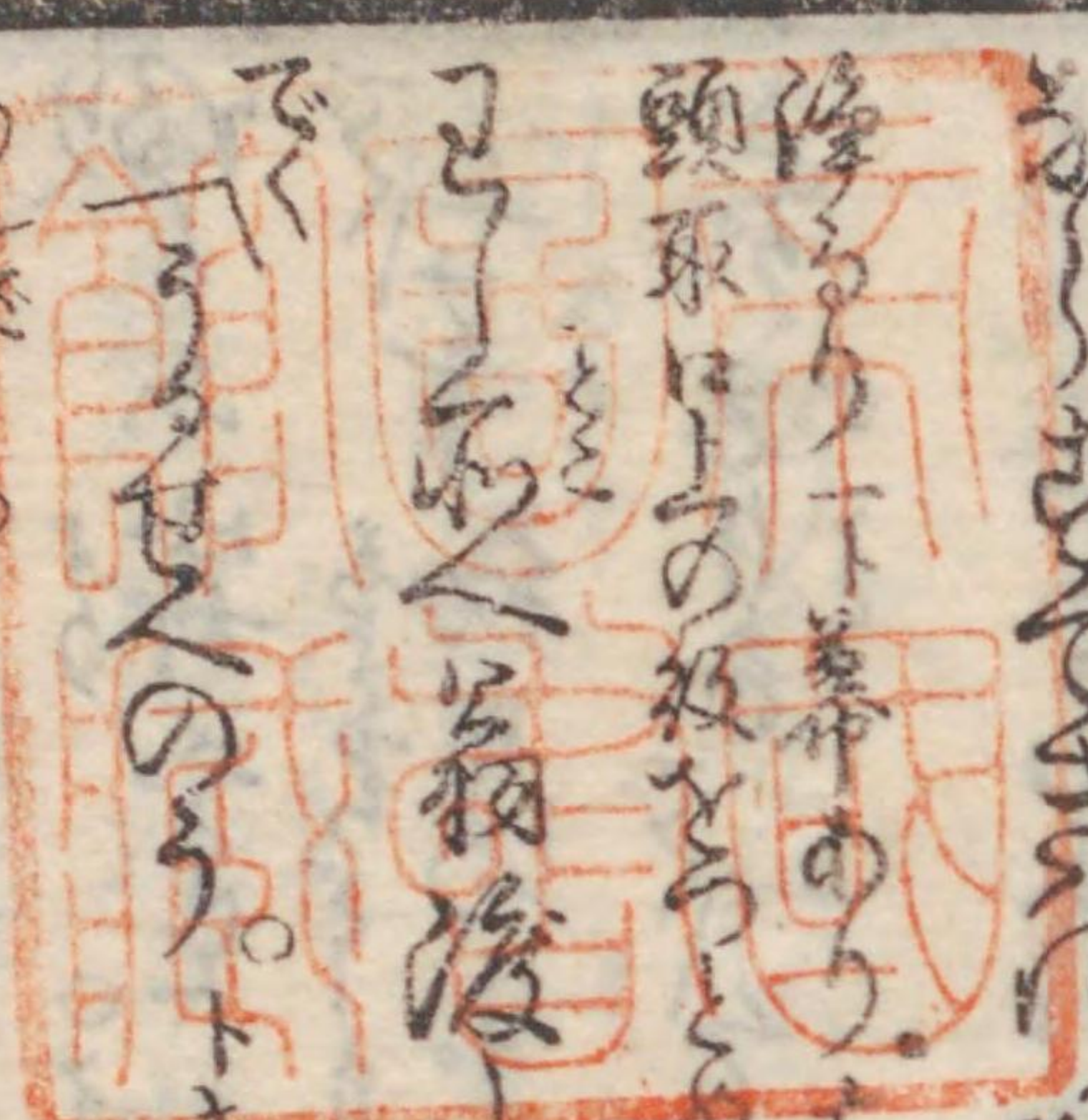
あ〜〜〜〜〜  
○公儀〜〜〜〜〜  
番〜〜〜〜〜

後〜〜〜〜〜  
頭取は〜の奴と〜  
明目の狂言何〜と外題と披露所

〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜

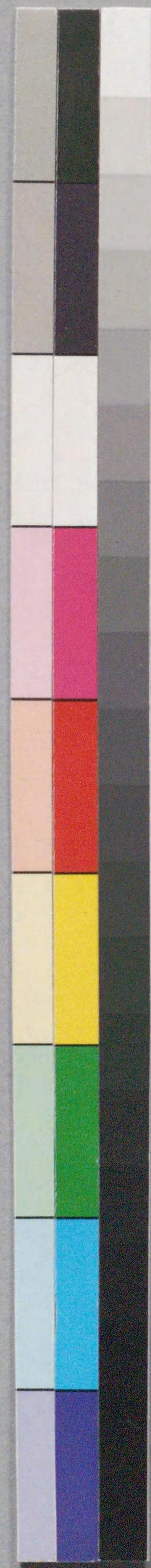
〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜



日本書紀

十九





あんなおんじらや。おまのどしたなまをめていたまへにいたまへん。  
 せうく 往りく。ト 幕屋 一 茶屋さん。とまを。とまへ。いま  
 けりふ 寄やを。一 おまのり 寄ららでものころちやらう。  
 下 初日の 出物 何ぞ。お物とら。一 振らやとら。お  
 づ。お屋を 下。せあてら。今度 役を せけと 甚代  
 よはよとら。役おりり。一 あせふ 役おんじら。  
 甚く 田舎 何らやに。一 そりやア。うづの 所 通と  
 一 下 茶屋さんやア。まの 年 ぞ 左 へ 回らわらう。一 足 六 大 ため

化ハ ぬらう。一 頭を 人 形。今度の 衣 装。沈 平 が  
 一 持ち ちやア。本 移。の 頭 あり。おやまの 福 かん ぞ 六 まで  
 衣 装 ぞ。よう。おと ヤンヤ。おやまの 福 かん ぞ 六 まで  
 まくある。それお 世話 何やまが。おまの 福 かん ぞ 六 まで  
 一 下 茶屋さんや。物 あり。おる 衣 装。何 物 着  
 せ 後。振 袖 七 番 上 下。一 時 代 衣 装。子 役 の 衣  
 仕 立。お 振 袖。一 ぐらう せき。せあてら。も ぐらう せき。せあ  
 して。おまの 金 ぞ 六 まで たり。一 目 五 金。一 衣 装 何 ぞ 六 まで





らう。あれでさくのをそ通らう。下野の山を所ぢや。其の上安くハ安を移くはる志國の本所田所あん  
 まやうく。ちうしうあんまうしう。牛と。中けりてりて  
 つく。忽ちうあくし。うづらきて居るであら。又  
 所をあらざう。そ移うるまで。下野。一はう移く  
 りう。毒。益。芝居の元ハ國東十八産といわ。今  
 下野の山を所ぢや。其の上安くハ安を移くはる志國の本所田所あん  
 まやうく。ちうしうあんまうしう。牛と。中けりてりて  
 つく。忽ちうあくし。うづらきて居るであら。又  
 所をあらざう。そ移うるまで。下野。一はう移く  
 りう。毒。益。芝居の元ハ國東十八産といわ。今  
 下野の山を所ぢや。其の上安くハ安を移くはる志國の本所田所あん  
 まやうく。ちうしうあんまうしう。牛と。中けりてりて  
 つく。忽ちうあくし。うづらきて居るであら。又  
 所をあらざう。そ移うるまで。下野。一はう移く  
 りう。毒。益。芝居の元ハ國東十八産といわ。今

日合書

のた





のう。二十五年のむうへ。穀田開く。田舎のた  
 長や山且那もどめ。皆稽古して人形を流るこ  
 めのう。ようむど金ふらつ。其の合六年中打通  
 ぶ。町くの休小遊る。田舎人。性いぬ。是う  
 衆州。色之性て。見か。思具。とおぬ者。只の一人も  
 後やう。川。野江。先山川の。あ。荒川。乃  
 地芝居と。ちて。年中。め。い。其代。も。ち。  
 大まさん。達。飯。が。食。る。か。ト。り。あ。り。な。い。で。イ。ト。返。え  
 洞と。さ。ると。ハ。ア。そ。り。や。能。り。ら。や。飯。が。食。る。か。ば  
 淨。り。や。飯。食。ふ。丈。小。溜。ん。せ。家。そ。ん。と。あ。り。り  
 何。れ。も。な。い。と。い。ふ。が。か。ト。ト。色。色。ら。や。ア。あ。る。か。何  
 ても。産。え。の。流。が。利。い。ぬ。の。か。ト。イ。ヤ。其。苦。は。こ。を  
 け。て。も。御。さ。ら。ら。い。へ。御。さ。ら。ら。い。我。身。に。つ。ま。さ。ら。は。て

狂言田舎操

110

















ぶらぶら。さうさう。はなはな。おんおん。  
 下りくちやあつむ。養うのう。きりり。トット  
 解けぬち。トット。トット。田舎をさるやうか。以呂波の  
 一之。田舎あるまかせん者ハ丸で六あん  
 の。一俵多。あうくの走らぬたまハ損ぢや。あうくの  
 くら。さうさ。さうさ。さうさ。達者ハ操徳おや  
 うさうさ。あう物もあう合せる。あんでも人形  
 遊びの聲の。おんおん。おんおん。三三。三三。三三。

あう。たまの。け。甲斐。新。者。納。今。友。お  
 うの。場。行。お。進。物。場。お。道。の。ま。ま。ま。  
 又。牙。賣。場。役。ぢ。や。が。跌。ち。う。い。ま。今。友。役。ぢ。  
 西。入。物。在。場。で。け。る。あ。う。の。う。に。是。で。け。  
 け。り。お。い。さ。う。ん。跌。ち。お。懐。う。さ。う。ん。達。入。れ。ぢ。ぢ。  
 こんど。と。度。あ。ね。り。口。上。で。が。お。め。の。名。を。呼。ぶ。よ。人。形。の。口。上。  
 ち。給。金。よ。う。い。ま。あ。あ。の。よ。う。い。ま。又。たま。風。邪。の。お。ち。よ。う。い。ま。  
 声。お。れ。藤。本。藤。新。たま。酒。本。飲。たま。割。竹。上。用。たま。

田舎操

廿五











馬どやうら。安くかりまらぶら。ドウ。ドウ。ト馬と寝まら  
 操村やまで二里とあけども。田舎道とらうあち  
 さん。四里とまらる色羊通らハア。又又長の田舎ど  
 サ。能ハ長い場を歩む騎せるおバチ。下ね  
 の押合として。馬と借が結ら。何おめ。  
 畜物ぢやアごんね。サ借が結ららめ。  
 買て往うへへいさのめ。馬士。あんごうけんね。ガ  
 馬お結ららうーやんねららもの。サ騎らめ。

ジャガ車とのお後ぢや。馬お結ららおのお後  
 さらとのふめ。か持ぢやアあるア。馬と借て  
 うがれもあめえ。ハチサ。馬でも飲ぶらとららら  
 降き流のり。馬でも食て通るハ。まらるもの  
 ど。そんな利をくらやア。物が居熱し移ら。そ  
 こららぐらとんねら。幾時あらる。  
 馬士。今の通ららら。二百で結らまら。下  
 考。何も彼も妻細接ら。打放しの月夜で

田舎操

110



かの。は馬をたてて。月夜と。トが。どうぞ。あつた。  
 孫子のまねを。暗ぢや。孫子が。あはれ。  
 等。いそいで。月夜。こりや。解せ。可馬。  
 士どん。氣が。悪の。げ。と。暗月を。晴で。ナシ。二十日  
 の。この。字。を。あつた。ヨシカ。月夜。六月の十  
 五日。表して。百五十九。あつた。よ。あつた。  
 どうも。お江戸の。酒。汁。あつた。あつた。  
 あや。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 黒。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 四。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 一。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 馬。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 馬。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 半。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 文。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 室。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

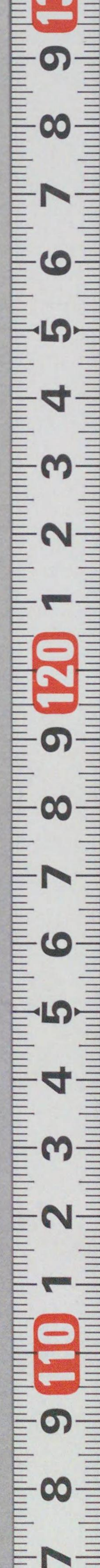
田舎操

三十一





こららの乗る時ふいと家んあん。こりやあつきの  
 ちや儲のこむえんの乗る時よけ方で網を束のびさるあ。  
 一里五丁の道を船のえんと移りとて代りぐら取らるさ  
 うう馬ま道みち便べんとて二人よち子こ又また獄ごくせんせまつたト。  
 まご多た。海うみ代しろの二十に又またツツもああやや引ひ合あんん込こみで  
 百ひゃく千せん二に文ぶん。こらくくえんせ。こむえん一里五丁いちりごていがるら他たふ  
 細こま費ひせせ騎りのの丈だけががままううけけららやや馬ま士し「まわわぢぢやや」こが  
 馬まんん已いがが飛とりりて。百ひゃく千せん二に文ぶん換かちちるるののぞぞ。馬ま士し「ままま其これれ  
 お物ものううんん」其代しろ。ああがが馬ま士しままるるふふ。馬ま士し「あん  
 ぐぐ六ろく二に里り十二じふに丁てい唯ただ乗のりりて。ここららががめめやや。一里五丁で百  
 廿に文ぶん。おおややららふふ。換かちちるる應おと劫くわつ記きぞぞ。ママアアよよししすす  
 ぞぞ。馬ま士し「まままココウウクク」ままま氣き難なんよよりりめめ物ものぢぢややああんん」あんん。  
 嘲あざわらまれるるややううかかののんんぞぞ。ココウウクク。何なんのの彼かののととりりああららふふ。  
 先さ刻さつううみみ田でんもも騎り後ごれれここらら。室むろでで二に百ひゃく廿に文ぶん。まままままままままま  
 昔むかしをを咄はなぶぶ。ナナントント中ちゆうととららてて。ままままままままのの擱おきううぢぢややアア  
 後ごらら。又またままままままままままままをを中ちゆうととららてて。ハハテテ釣つりささおおああん





八十さうが、後におれが八千も、メて百五十四文。これぞ  
 有利あり。せうこそがね。馬仕馬仕ようござる。乗中乗中せう。さう  
 まりておれもあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 りの西へあつた。サア乗る。さう。さう。さう。さう。さう。  
 騎騎せてくせえせ。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。  
 が捌捌て出来。馬馬さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。  
 血血糸糸おとおとなつた。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。  
 せん。チヨツ。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。  
 鬼鬼めめららややナナアア。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。  
 氣氣味味。

助助く。ト声。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。  
 氣氣をつけ。あつた。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。  
 ておれ。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。  
 しめ痛痛づづううとして。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。  
 めう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。  
 どの。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。  
 さ。馬馬士士。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。  
 である。馬馬士士。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。











とらり稽こし遠移とらりへ。住さんの倉くらを著おんて  
 も授まけてとちおう。田舎あつち氣き中ちゆうちゆうあるやうさ。  
 三がれ津つで押おも押おもせぬ名な人の住すさん九人くわん  
 十人。たまたまとたまのつつさん。住さんの声こゑ色いろを傳つたふ  
 ほどた昔むかし々々貴たかすねるお人ひとでも縁えんある一所ところは  
 度ど一いっ難がたくで時ときの表おもて裏うらのあつりあつりをううねる  
 一いっ倉くらたまのたま。江戸えどももも異い質しつ  
 の有あり人ひとぢやが。住さんと移うつて隣りんりる坂さかでふあひ。

ちか倉さんハ荒張あらかの田舎あつち芝居しばいぢや。中ちゆう蔵ざうを  
 して突つ抜ぬくつの妙音めうおんイヤイヤとらとらありおおままんん住す  
 さんハ若成わかしやう世よと遠とほらつてああのあひひききううちちでで油あぶらををれ  
 低ひい時とき合あひ田舎あつちの人ひとちちはああららが其そののの音ねをを倉くらさん  
 ちちの聲こゑのの好このよよふふけけききんんををまませせてて傳つたるる。大おほののけけれれん  
 けけいいででああらら。一いっ体たいががチチヤヤリリをを傳つたるる。ああの  
 一いっ放はな題だいをを傳つたるるも。田舎あつちががああつつるるののささ。ああの  
 頃ころのたまたまの中ちゆうでも。吉人きちじん中ちゆう村むらををああらら。中ちゆう村むらやや傳つたるるよよううのの  
 竹本たけもと村むらたまたまののああの







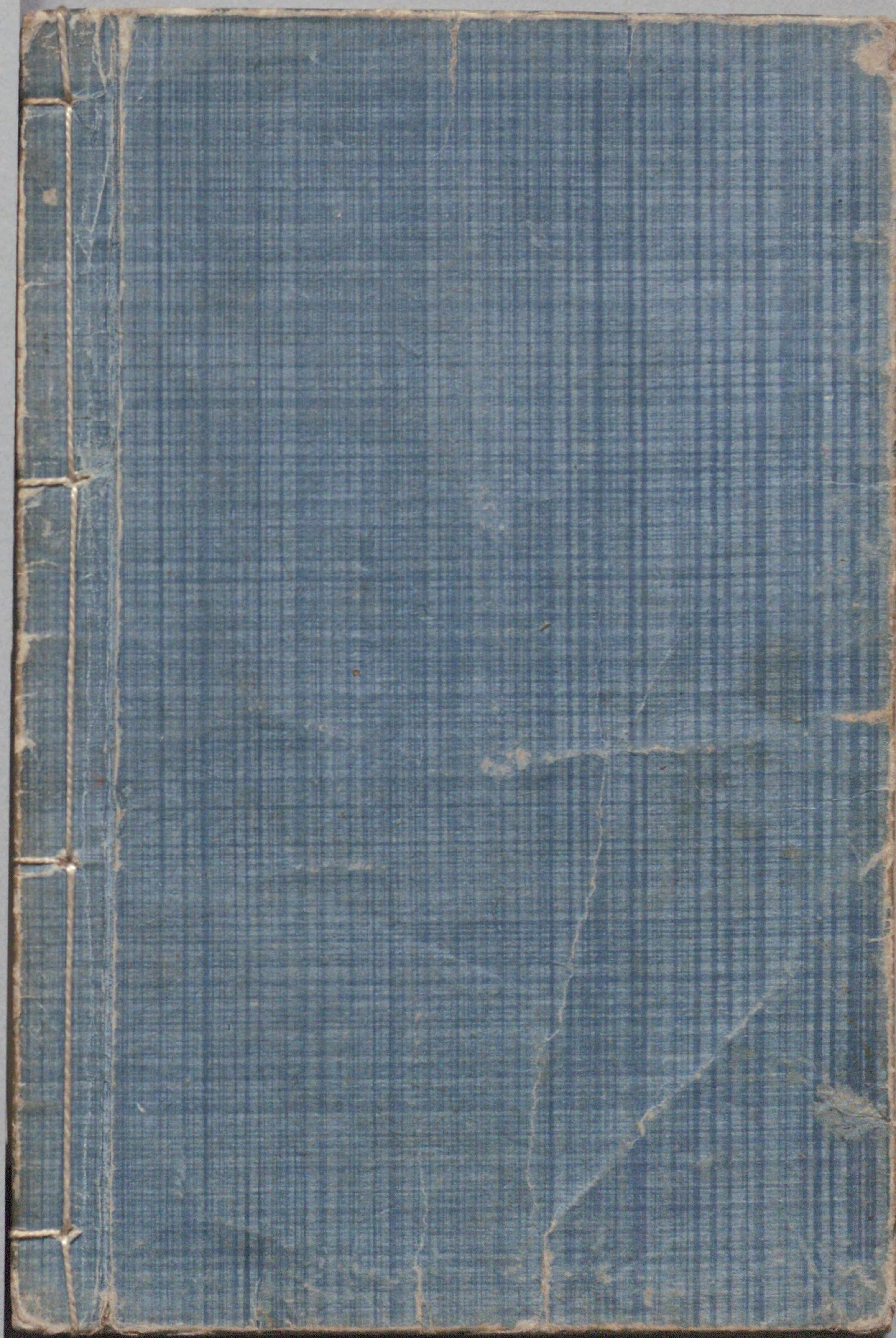












国立国会図書館 狂言田舎操 208-88

ガラス使用